

教科	家庭科	学年	第3学年
----	-----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活の課題と実践 【報告会・評価】 (p.292~303)	1	○生活の課題と実践の実践報告を行い、ふり返り評価する。		・設定した課題について評価したり、改善したりしている。 ・課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・設定した課題について、課題の解決に主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
4幼児の生活と家庭 (p.40~59)	9	■自分の成長をふり返り、幼児期への関心をもつ。 ○これまでの成長過程で幼児期を把握し、幼児期は心身共に大きな成長をする大事な時期であることを理解する。	・幼児期の成長や生活には、多くの人に支えられてきたことを理解している。	・幼児とのかかわり方について問題を見いだして課題を設定している。	・自分の成長をふり返り、幼児の学習について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
		■幼児期の心身の発達の特徴や生活を理解する。 ○幼児と中学生の身体的な違いを知り、幼児期は心身ともに著しく発達する時期であることを理解する。 ○幼児の言葉、情緒、認知、社会性の発達について、具体的な行動の意見を出し合い、その意味と発達段階における成長や変化について考える。 ○幼児の基本的生活習慣や社会的な生活習慣を理解し、幼児の衣生活・食生活で工夫していることをグループで考える。	・幼児の身体と心の発達について理解している。 ・基本的な信頼関係や生活習慣の内容や生活習慣を身につける大切さを理解している。	・幼児の発達や生活は家族や周囲の人々に支えられていることを理解し、その重要性について考え、工夫している。	・幼児にとっての家族や周囲のおとなの役割について課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。
		■幼児にとっての遊びの意義と子どもが育つ環境について考える。 ○幼児のところに遊んでいた遊びや読んでいた絵本をグループで出し合い、幼児が遊ぶ理由などを話し合う。 ○幼児にとってよい遊びができるようになるにはどうしたらよいか考える。 ○幼児にとって安心・安全な居場所とはどのような場所か、これまでの学習をふり返りながらグループで話し合いまとめる。	・幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ・子どもが育つ環境としての、家族や周囲のおとなの役割について理解する。	・幼児にとっての遊びについて問題を見いだして課題を設定している。 ・幼児にとって安心・安全な居場所についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・自分の経験から幼児期の遊びなどを思い出し、幼児にとっての遊びについて、工夫し創造し、実践しようとしている。

令和7年度 評価規準

学校名:江戸川区立松江第六中学校

5幼児が安心できるかかわり (p.60~71)	4	■ 幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、これまで学んで身につけた基礎的・基本的な知識を活用して幼児とかかわる。 ○ 幼児について知りたいことや疑問に思うことなどの自分の課題を見つける。 ○ ふれ合う幼児の年齢や発達の特徴などから、接し方や話し方、遊び方を工夫し、安全に配慮しながら幼児とのふれ合い体験を行う。 ○ 幼児と交流して感じたことや考えたことをグループで報告し、まとめる。	・ 幼児に応じたかかわり方について理解しているとともに、適切にできる。 ・ 幼児とかかわりについて理解しているとともに、観察したことを整理し、適切にまとめることができる。	・ 幼児とのよりよいかかわり方について問題を見いだして、課題を設定している。 ・ 幼児とのよりよいかかわり方について、実践を評価したり、改善したりしている。	・ 幼児とのよりよいかかわり方を考え、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
		■ 子どもの成長と地域のつながりについて知り、地域の中で中学生ができることを考える。 ○ 地域で子どもを支えている施設の役割などを理解し、中学生ができるかかわりについて考える。		・ 地域での幼児とかかわり方について考え、工夫している。	
7持続可能な家庭生活 (p.82~84)	1	■ 誰もが尊重される家庭・地域の生活について課題を見つけ解決策を考える。 ○ 家庭生活の学習をふり返り、SDGsと家庭生活のかかわりについて考える。 ○ 誰もが尊重される社会はどうすれば実現するかについて考え、話し合い、発表する。		・ 家族・家庭・地域についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・ これからのよりよい社会のために、何ができるのかについて工夫し創造し、実践しようとしている。
4持続可能な社会に向けて (p.284~288)	3	■ 持続可能な社会に向けて、自分たちができることを考える。 ○ 自分の消費生活が環境に与えている影響について話し合い、自分なりの解決方法を考える。	・ 自分や家族の消費生活が環境に及ぼす影響について理解している。	・ 今までの学習をふり返り、持続可能な社会に向けての取り組みについて考え、工夫している。	・ 持続可能な社会を目指して、自分たちができることを工夫し、実践しようとしている。